

**セ試平均点**(900点満点；加重平均)は、

**文系型 32.9 点ダウンの 531.0 点、**

**理系型 37.3 点ダウンの 534.7 点！**

基幹科目の国語、数学ダウンで、文・理系型とも大幅ダウン。英語前年並み、日本史・世界史アップ、物理・化学・生物ダウンが文・理系の明暗分かつ。

旺文社 教育情報センター 19年1月24日

19年センター試験(本試)が1月20日(土)・21日(日)の両日、全国735試験場で実施された。昨秋発覚した必修科目の未履修問題で急遽、設定された補習授業を受けながらの受験生も少なくなかったようだ。大学入試センターが1月24日に発表した各科目の平均点等の中間集計を基に、文系・理系の標準型-5(6)教科7科目(900点満点)の平均点を算出した。

文系型531.0点、理系型534.7点で、ともに前年より大幅ダウン。国語、数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰのダウンに対し、日本史Bのアップが目立つ。英語は筆記でアップ、リスニングテストでダウンし、両者を合わせた得点率は65.7%(200点満点=131.5点)で、ほぼ前年並み。日本史・世界史のアップに対し、数学・理科のダウンで、文系・理系の明暗を分かつ形になった。また、平均点ダウンで国公立大へは“弱気出願”に走り、私立大のセンター試験利用入試の併願が増えそうだ。各科目の平均点等の最終確定は、2月7日に発表の予定。

### ■ 志願・受験状況

<志願状況：志願者数約55万3,000人で、4年ぶりに微増>

- ①志願者数、前年より約2,000人増：19年センター試験の志願者数は、前年比0.4%増の55万3,352人で、3年連続の減少に歯止めがかかった。
- ②現役・女子“増”、浪人・男子“減”：高校等卒業見込者(現役)の志願者数は18歳人口・高卒者数減の中、18年より8,291人(1.9%)増え、現役志願率も37.7%で過去最高を更新。女子も3,359人(1.5%)増え、現役は2年連続、女子は4年ぶりの増加となった。  
一方、高校等卒業生(浪人)の志願者数は18年より6,518人(5.5%)の減で、4年連続の減少。男子も前年より1,389人(0.4%)減り、4年連続の減少である。
- ③志願者数増の背景：19年の18歳人口は18年より2万6,000人(2.0%)、高卒者数は2万3,000人(2.0%)のそれぞれ減少が見込まれ、大学受験者数(実数)も1万9,000人(2.7%)減の67万2,000人、短大は9,000人(10.1%)減の8万人程度と予測される。

こうした中で、現役と女子の増加が全体を押し上げる形となったが、その背景としては、私立大センター試験利用入試における現役志願者層の拡大や、専門学校から大学への進学転換の一層の拡大、高校教育の多様化による志願者の裾野の広がりなどがある。

<受験状況：公民は前年の「現社」平均点ダウンから、受験者減か>

第1日目(1月20日)と第2日目(21日)の受験状況は、以下のとおり。

◇[第1日目](1月20日)

教科等	19年受験者(対前年比)	19年受験率(対前年比)	18年受験者	18年受験率
公民	321,882人(-1.7%)	58.2%(-1.2ポイント)	327,374人	59.4%
地歴	360,795人(+0.9%)	65.2%(+0.3ポイント)	357,706人	64.9%
国語	487,440人(+1.0%)	88.1%(+0.5ポイント)	482,815人	87.6%
外国語 筆記	504,626人(+0.8%)	91.2%(+0.4ポイント)	500,493人	90.8%
外国語 リスニング	497,508人(+1.0%)	89.9%(+0.6ポイント)	492,596人	89.3%

◇[第2日目](1月21日)

教科等	19年受験者(対前年比)	19年受験率(対前年比)	18年受験者	18年受験率
理科①	200,278人(±0%)	36.2%(-0.1ポイント)	200,349人	36.3%
数学①	368,420人(-0.4%)	66.6%(-0.5ポイント)	369,951人	67.1%
数学②	329,564人(-0.5%)	59.6%(-0.5ポイント)	331,175人	60.1%
理科②	238,811人(+0.7%)	43.2%(+0.2ポイント)	237,090人	43.0%
理科③	168,866人(+0.2%)	30.5%(-0.1ポイント)	168,574人	30.6%

注1. 外国語の「筆記」は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。「リスニング」は英語のみ。

2. 受験者数は18・19年とも、速報値。

各教科(受験枠)の受験状況を見ると、志願者増を反映し、ほとんどの受験生が受験する外国語のほか、国語も受験者増、受験率(受験者数÷志願者数)アップとなっている。

英語リスニングテスト(以下、リスニング)は、一般入試において、国立大98%、公立大92%、私立大64%でそれぞれ合否判定に利用(筆記とリスニングの得点次第ではリスニング不採用の場合も含む)される。こうした状況の下、リスニング受験者は49万7,508人で前年より1.0%増加した。

なお、リスニングではICプレーヤーの不具合などから394人の再テスト対象者が出たが、そのうち381人がリスニング終了後(第1日目)に別の機器で再テストを受けた。

公民受験者の減少が目立つが、これは前年の現代社会の大幅な平均点ダウン(17年確定値70.2点、18年確定値57.9点)から、いわゆる“公民保険”の意味合いが薄れたことなどによるものとみてとれる。

地歴は受験者増、受験率アップだが、これは、必修「世界史」の補習効果が多少影響しているともみられる。

### ■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月24日)

主な科目の前年との平均点差をみてみよう。

前年より平均点がダウンした主な科目は、国語(前年中間集計値との差。以下、同。-14.9点)、物理(-8.7点)、数学・A(-8.3点)、数学・B(-7.5点)、現代社会(-7.3点)、地理B(-6.6点)、生物(-2.7点)、化学(-2.4点)など。英語は筆記で+4.5点だが、リスニングが-3.6点で、「筆記+リスニング」(加重平均による得点率<65.7%>

を基に 200 点満点に換算。以下、同)は +0.9 点と、ほぼ前年並み。

国語、数学・A、数学・B、といった文系型・理系型に共通の基幹科目の大幅ダウンが目立つ。

国語は例年通りの出題形式や分野(近代以降の文章 2 題<評論・小説>、古文 1 題、漢文 1 題)であったが、評論・小説の文章量の増加に加え、小説の選択肢が紛らわしかったことなどから、大幅な平均点ダウンに繋がったようだ。

理科は前年大幅アップとなった物理が一転して、大幅ダウンとなったほか、生物、化学もダウンした。物理は受験生に馴染みのない題材(潜水艇など)が出題されて戸惑いがあったようだが、計算だけでなく、物理的な洞察力をみる問題も多く、全体として難化した。

数学・Aは全体的に難化したことに加え、得点しやすい第 1 問の配点が減り、難化した第 3 問(図形問題)の配点が増えたことなどから、平均点大幅ダウン。

なお、第 4 問の「場合の数、確率」は、セ試が開始された平成 2(1990)年の旧数学(旧・旧課程)の追試験と問題設定が同じであった。

数学・Bは第 1 問の[2]に、センター試験では目新しい対数不等式と領域との融合問題が出題され、問題量や計算量も多く、受験生にはきつかったとみられる。

公民では受験者数の一番多い現代社会が、前年の平均点大幅ダウンに引き続き、2 年連続のダウンとなった。

全体としては難化しているが、満遍なく確実な知識があればクリアできる問題も多い。ただ、“公民保険”の受験生にとっては、厳しかったようだ。

地理 B は、図表や統計資料の分析力をみる問題が増加し、難化した。

英語の筆記は出題形式が大幅に変わり、問題数・語数とも増えたが、平易な問題が多い。

リスニングは形式・内容・問題量など、ほぼ前年を踏襲。読み上げ速度が速くなって、やや難化した。

一方、平均点アップした科目は日本史 B (+12.3 点)、政治・経済(+3.0 点)、世界史 B (+1.2 点)など。日本史 B は得点しやすい政治分野からの出題が増え、易しくなった。

大学入試センターから発表された科目別平均点と受験者数(中間集計)をもとに旺文社が算出した 5(6)教科 7 科目(900 点満点)の加重平均点は、次のとおり。

○文系標準型(地歴と公民各 1 科目、理科 1 科目)； 531.0 点(−32.9 点)

○理系標準型(地歴と公民合わせて 1 科目、理科 2 科目)； 534.7 点(−37.3 点)

ここでの文系型、理系型の平均点は、私立大型を含む全受験者の加重平均を集計したものである。また、特に理系志望者は、平均点がダウンした物理、化学、地理 B などの選択が文系志望者より多いと想定される。そのため、対前年のダウン幅は、実際の理系志望者においてはこれよりやや大きいと見られる。

○文・理系型共通の 5 教科 6 科目平均点(地歴と公民合わせて 1 科目、理科 1 科目の 800 点満点を 900 点満点に換算)； 528.5 点(前年確定値との差、−38.3 点)

前年は新課程入試初年度に当たり、従来の傾向どおり高得点であったが、今回はその反動から、大幅にダウンしている。

得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、

地歴：世界史B－地理B＝10.2点／公民：倫理－現代社会＝19.0点／理科：生物I－物理I＝2.4点。

現時点では、「倫理」と「現代社会」との較差が微妙だ。20点以上の較差があり、問題の難易差に基づく場合には、得点調整が実施される。実施の有無については1月26日(金)、大学入試センターから発表される予定。

### ■日本史・世界史アップ、物理・化学・生物・地理ダウンで、“文高理低”に拍車

文系科目の日本史Bや世界史Bの平均点アップに対し、理系科目の物理・化学・生物、及び理系志望者の比較的多い地理Bや現代社会のダウンで、文系志望者と理系志望者との平均点較差は、前述の加重平均による較差以上に開いていると見られる。

そこで、その較差が出願先の学部系統に、どんな影響を与えるのか。

景気の好況感が続き、大卒就職率の好転などから、「経済・経営・商」学部系の人気上昇しているが、日本史B、世界史B、政治・経済の平均点アップで、人気はさらに伸びそう。

「法」学部も日本史B、世界史B、政治・経済のアップに加え、新司法試験の合格率がはっきりした(合格率；旧試験約2% 新試験約48%)ことなどから、人気回復に拍車。

「教員養成」系は、教員免許更新制や研修制度、いじめ問題など、厳しい教職環境に対する敬遠志向に、数学の平均点ダウンが加わり、志願者減は必至だ。

最近の「理工」系は、国立大といえども倍率1倍台という深刻な状況も見られる。

今回の数学と理科(特に物理)の大幅ダウンで、全体としては“理工系離れ”が一層進むと見られる。

ただ、倍率ダウン(易化)の狙い目から、逆に志願者増となる大学も一部にはあろう。また、国立大の難関理系学部では前期集中化とも相俟って、リスク回避から、難関私立大の併願が増えそう。

「薬」学部は化学、生物のダウンが影響し、前年同様、志願者減は必至の状況。

「医」学部(医学科)人気は根強く、「高嶺安定」といえるが、平均点の大幅ダウンから、私立大も含めた分散傾向が見られよう。

★19年入試は、センター試験の平均点ダウンが喧伝される中での出願となるが、これは前年との比較であり、19年入試の受験生同士の較差ではない。つまり、自分だけが得点ダウンしているわけではないので、あまり“弱気出願”に走ることもなからう。

(次ページに平均点(中間集計)一覧を掲載)

## 平成19年度大学入試センター試験(中間集計)平均点等一覧

<平成19年1月24日 大学入試センター発表>

教科名	科目名	平成19年(中間)		平成18年(中間)		平均点の 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
文系標準型平均点(900点満点)			<b>531.0</b>		563.9	▲ 32.9	
理系標準型平均点(900点満点)			<b>534.7</b>		572.0	▲ 37.3	
国語(200点)	国語	217,134	107.6	197,512	122.5	▲ 14.9	
地理歴史 (100点)	世界史A	1,092	48.2	648	45.0	3.2	
	世界史B	39,897	68.6	35,095	67.4	1.2	
	日本史A	1,946	51.1	2,178	57.2	▲ 6.1	
	日本史B	62,768	67.6	58,126	55.3	12.3	
	地理A	3,188	54.7	2,792	63.1	▲ 8.4	
	地理B	33,867	58.4	33,578	65.0	▲ 6.6	
公民 (100点)	現代社会	70,321	51.5	68,774	58.8	▲ 7.3	
	倫理	19,299	70.5	16,695	69.1	1.4	
	政治・経済	31,329	65.0	26,905	62.0	3.0	
数 学	数学 (100点)	数学	6,989	45.0	5,448	54.9	▲ 9.9
		数学・A	149,265	54.3	125,904	62.6	▲ 8.3
	数学 (100点)	数学	4,780	31.7	4,546	36.5	▲ 4.8
		数学・B	131,818	51.2	109,867	58.7	▲ 7.5
		工業数理基礎	14	62.4	11	42.4	20.0
		簿記・会計	312	50.9	281	54.0	▲ 3.1
	情報関係基礎	194	61.6	150	58.7	2.9	
理 科	理科 (100点)	理科総合B	7,038	62.9	5,127	67.5	▲ 4.6
		生物	69,437	67.5	55,964	70.2	▲ 2.7
	理科 (100点)	理科総合A	12,761	58.8	9,862	67.5	▲ 8.7
		化学	86,138	62.3	69,740	64.7	▲ 2.4
	理科 (100点)	物理	63,840	65.1	51,736	73.8	▲ 8.7
		地学	10,962	65.4	8,211	62.0	3.4
外国語 (200点)	英語	筆記(200点)	228,254	131.9	205,270	127.4	4.5
		リスニング(50点)	216,025	32.5	188,365	36.1	▲ 3.6
		筆記+リス(200点)	—	131.5	—	130.6	0.9
		ドイツ語	67	146.6	55	158.1	▲ 11.5
		フランス語	130	146.7	109	138.4	8.3
		中国語	281	167.8	199	171.7	▲ 3.9
		韓国語	135	150.0	122	156.7	▲ 6.7

<注> 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴(100点)、公民(100点)、数学(100点)、数学(100点)、理科( )、  
 合わせて集計100点)、外国語(200点;英語は筆記<200点>+リスニング<50点>の得点率を基に200点換算)の加重平均点。  
 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ(1教科として集計100点)、理科を2科目( )、  
 の各加重平均点の合計×2/3=200点)、とする5教科7科目の加重平均点。  
 文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数をもとに旺文社が算出(小数第1位まで)。  
 5教科6科目(文系・理系共通の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は528.5点で、18年(確定)より38.3点のダウン。  
 地歴(B科目間)、公民、理科(各科目間)における得点調整は、「倫理」-「現代社会」が19.0点で、現時点では微妙な状況。  
 18年は、旧課程履修者に対する経過措置のデータを除外してある。